

平成 29 (2017) 年 1 月 10 日
在ベネズエラ日本国大使館
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像 よく考える子 思いやりのある子 進んでやりぬく子 強くたくましい子 日本もベネズエラもよく知る子

長かった2学期が終わりました！ 子どもたちは、心も体も大きく豊かに、優しく育ちました！ 授業日87日の2学期が終わり、授業日47日の3学期が始まりました！



■アティージェ上空に日暈(ひがさ)出現!■

昨年、12月20日(火)の昼休みの時間に、学校の上空に「日暈(ひがさ)」が出現しました。太陽の周りを虹が囲むような、そんな感じです。日本でも見たことがあります、ちょっと珍しい自然現象です。

【日暈(ひがさ)】暈(かさ、halo、ハロー、ハロ、ヘイロー)とは、太陽や月に薄い雲がかかった際にその周囲に光の輪が現れる大気光学現象のことである。特に太陽の周りに現れたものは日暈(ひがさ、にちうん)、月の周りに現れたものは月暈(つきがさ、げつうん)という。虹のようにも見えることから白虹(はっこう、しろにじ)ともいう。



■第2学期終業式を行いました!■

昨年12月23日(金)に第2学期の終業式を行いました。2学期は8月23日に始まった5ヶ月に及ぶ大変長い学期でした。こどもまつり、水泳教室、校外学習、フリー参観、学習発表会、宿泊学習、PTAもちつき大会、マリア校交流…楽しい行事・取組がいっぱいありました。そんな中で、子どもたちは大きく、豊かに、優しく成長しました。そして、いよいよまとめの学期、3学期が始まります。

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…(その144)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です! NO. 39

「ヴェネズエラ日系人70年の歩み」(1998年7月1日刊行)には、第8代校長渡辺佑校長先生(1996年~1998年勤務)の原稿も掲載されています。その一部を紹介します。

■日本人学校の歴史から学ぶ…(渡辺 佑) ■ …学校沿革史によりますと、昭和53(1978)年9月1日に学校建築委員会が発足して以来、物件を探す委員会、契約等について交渉する委員会等、日夜会合を重ね、ついに30件以上の物件からここアティージェが最も条件に合ったものとして選定されたことが記されています。

総工費5千万ボリ(約2億6000万円)を要した新校舎は、昭和56(1981)年7月に完成し、翌年2月12日には開校記念式典が大使、理事長やPTA会長をはじめ、同国関係諸機関の方々のご列席のもとに華やかに挙行されています。こうして夢にまで見た自分たちの校舎が実現の運びとなったわけです。その時の喜びは言葉では言い尽くせないものであり、私たちが語るには余りあるものがあるに違いありません。関係者の方々の労苦に対し、改めて心より感謝申し上げ、いつまでも忘れないよう心の宝物として大切に、しっかりと受けとめていきたいと思えます。こうして自分の学校が出来てからの本校の発展は、各記念誌にも掲載されていますように、学校のシンボルである校章、校歌も選定され、各種規則の整備も進み、目覚ましい発展を続け、充実期を迎え今日に至っています。このように多くの方々ご尽力によって築かれてきた伝統や校風を大切に受け継ぎ、その上に更に新しくよりよい道を創っていくことを目標に取り組んでいます。ポスト20周年、そして本年度と常に新しい視点で本校の教育を見直しているところでございます。どうか、これからも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い致します。 つづく